



## 今日のトピック 米国株式市場の見通し

# 不透明要因は残るものの、長期の視点で臨む局面

### ポイント1

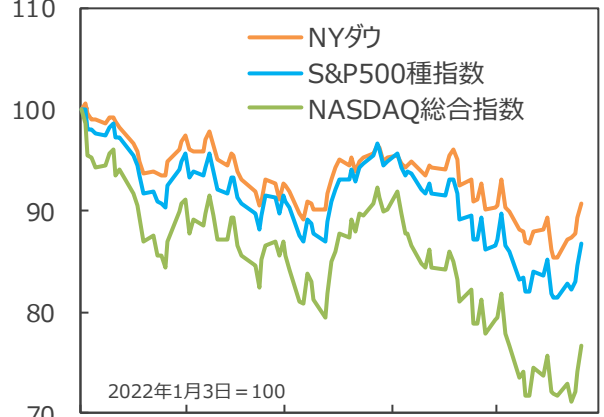
## 9週ぶりの反発となったNYダウ

### 一般消費財・サービスは+9.2%

- 先週の米国株式市場は、NYダウが9週ぶりに前週比+6.2%の上昇となりました。S&P500種指数は同+6.6%、NASDAQ総合指数は同+6.8%と、ともに8週ぶりの上昇となりました。
- S&P500種指数のセクター別指数を見ると、一般消費財・サービスが前週比+9.2%、エネルギー、情報技術が同+8.1%、金融が同+8.0%と大幅な上昇となりました。
- これまで大幅な下落が続いていたことで、底打ち期待が醸成される中、先週発表された企業決算が概ね良好だったことや4月の個人消費支出(PCE) 価格指数の上昇が鈍り、インフレに安定の兆候が見られたことなどがサポート要因となりました。

(ポイント)  
110

### 【米国の主要3株価指数の動き】



22/1 22/2 22/3 22/4 22/5 (年/月)  
(注) データは2022年1月3日～2022年5月27日。

(出所) FactSetのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

### ポイント2

## 株価を支える要因

### バリュエーションと企業業績

### 低下したバリュエーション

- 今週以降も反発を見込む声が多いようです。6月中旬の米連邦公開市場委員会(FOMC)での0.5%の利上げは概ね織り込まれています。先週は反発しましたが、年初来の株価下落が大きかったため、現在は長期投資の視点からの押し目も入りやすい局面と考えられます。
- また、S&P500種指数の予想PERは5月27日現在17.5倍です。最安値を更新した5月19日は16.4倍でしたので、その水準からは上昇していますが、4月が上旬まで概ね19倍台だったことを考えると過熱感はないと思われます。

### 【S&P500種指数と予想PER】



00 02 04 06 08 10 12 14 16 18 20 22 (年)  
(注) データは2000年1月3日～2022年5月27日。予想PERは12カ月先予想利益ベース。予想はFactSet。予想PERの平均値は2000年1月3日～2022年4月29日で計算。

(出所) FactSetのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。

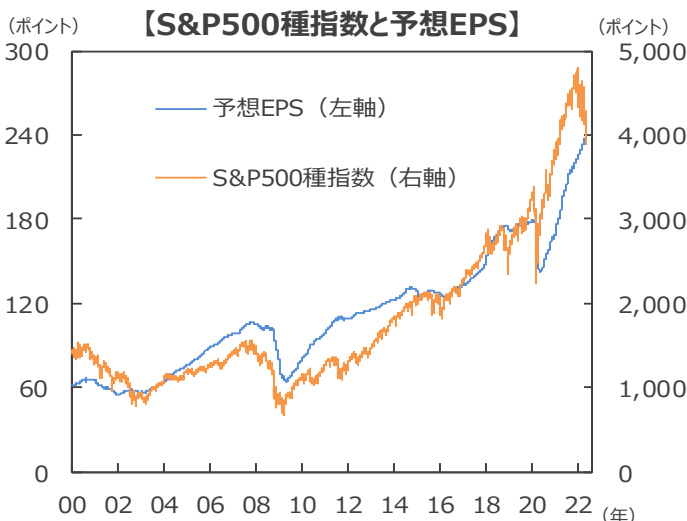
信頼を取り戻す企業業績

- 企業業績に対する信頼も回復すると見込まれます。懸念されるコスト上昇による悪影響は一部にとどまっており、今後も利益は底堅く推移すると見られるためです。さらに、企業業績が好調で潤沢なキャッシュフローを生み出している企業は、株主への還元（配当や自社株買い）によって株価を維持するといった行動をとることも期待されています。

今後の展開

不透明要因は残るものの、  
長期の視点で臨む局面

- インフレ上昇の勢い鈍化等によって米国株式市場では不透明感がやや後退しています。短期的な割安感もあり資金が流入している状況です。
- 下表の不透明要因は、推移が明らかになるのに時間を要するものが多くなっています。このため、当面、不透明感が払しょくされない状況が想定されます。
- ただし、今後のリスクシナリオについて市場での織り込みは、相当程度進展したと見られます。また、循環的な要因も多く、時間の経過とともに改善へ向かうと見込まれます。短時間ですべての要因が好転するわけではありませんが、現在は長期の視点で臨む局面と考えられます。



(注) データは2000年1月3月～2022年5月27日。予想EPSは12カ月先予想利益ベース。予想はFactSet。  
(出所) FactSetのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【主な不透明要因と今後の見通し】

主な不透明要因	現状	今後の見通し
ウクライナ情勢	ロシアの攻勢が強まり、ウクライナは徹底抗戦	膠着状態。外交的な解決は当面見込めず
原油価格など商品市況	WTI原油先物価格は緩やかに上昇。小麦などの穀物も上昇基調	資源価格、商品市況は高止まる可能性
中国のコロナ対策と景気	上海は3月28日から実施してきたロックダウン（都市封鎖）を、6月1日から実質的に解除する方針を発表。ロックダウンによる米国への影響は輸入の減少など限定的	中国の歳出予算の伸びの設定は高く、年後半の景気立ち直りに期待。但し、新たな感染爆発が起こると景気持ち直しは困難となろう。米国へは再度輸入などにマイナスの影響
米国利上げ	5月4日に0.5%の利上げ。年末のFFレートの水準は3.0%と予想（弊社）。22年内の利上げ期待はほぼ収斂	23年以降の利上げについては依然として不透明。8月のジャクソンホール会議、9月のFOMCに注目
量的引き締め	FRBは6月1日から保有資産の圧縮を開始	約9兆米ドルの保有資産を2025年末には5兆米ドル程度まで縮小する見込み。金利、株式、経済への影響は不明であり、注意深い対応が必要
米国のインフレ	インフレの基調は強く、賃金上昇も継続しているが、コアCPIには若干の変化の兆し	輸送サービスが落ち着けば、さらにインフレ基調が軟化する可能性がある
米国景気（リセッション懸念）	インフレにより可処分所得が目減りし、実質消費は軟化。ただ、雇用情勢が堅調で、早期で持続的な景気後退は避けられよう	オミクロン型収束後の雇用補充の一巡、企業の雇用コスト負担増、生産活動の循環的な減速が続き、徐々に成長率は鈍化。しかし、米景気は数年後に再び拡大へ向かう

(注) 2022年5月31日現在。FRB：米連邦準備制度理事会、FOMC：米連邦公開市場委員会、ジャクソンホール会議：カンザスシティ連邦準備銀行がワイオミング州のジャクソンホールで開催する経済政策シンポジウム。パウエルFRB議長などが参加し、講演を行う。  
(出所) 各種情報を基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ここも  
チェック!

2022年5月30日 ナスダック総合株価指数の調整はそろそろ終了か  
2022年5月 9日 米国1-3月期決算は事前予想を上回る

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。